

大仙市電気事業経営戦略について

事業概要

発電所：太陽光発電 2箇所「大仙市柏台太陽光発電所（第一、第二発電所）」
最大出力：2,354kW
発電電力量：299万7549kWh（年間平均）
役割：年間約1,700tのCO₂排出量の削減に貢献

経営戦略策定の趣旨

公営企業は独立採算性を原則としており、事業を安定的に継続するため、中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を策定し、経営基盤の強化と財務マネジメントの向上に取り組む。

計画期間

平成29年度～平成47年度

経営の基本方針

地球温暖化対策への取り組み及び太陽光発電設備導入を促進するとともに、市有地の有効活用を図るために大仙市が発電事業者として太陽光発電事業を実施、環境負荷の小さい地域をつくりあげる。

事業の枠組み



収支計画

発電した電力は、再生可能エネルギー固定価格買取制度により20年間、全量を1kWhあたり36円（税抜）で東北電力に売電し、施設リース料の支払に充てる。

収支見込み 1億0881万円

事業収益は今後の環境対策事業に活用するとともに、天候不順による減収リスク等に備えるため全額を「大仙市地球温暖化対策基金」に積立てる。

[収入]

収入財源

売電収入 22億9063万円

売電収入は太陽光パネルの劣化率を年0.5%と仮定した発電量に基づき算定。

[支出]

投資的経費

リース料支払総額 20億9425万円

民間企業と締結した20年間の包括的施設リース契約に基づき発電施設を建設。リース料には建設費用のほか、施設の維持管理、各種保険及び事業終了時の撤去費用の積み立て等も含まれている。

（リース期間：平成28年1月1日～平成47年12月31日）

投資以外の経費

一般管理費 8757万円

保安全管理業務の外部委託費用、発電データ遠隔監視システム費用、構内草刈り・除雪作業委託費用等がある。

経営戦略の事後検証

発電量等のモニタリングを実施し、経営戦略の事後検証、見直しを行う。